令和４年７月19日

SDGｓについて詳しく知ろう（その１）

１　はじめに

市街地のソーシャルデザインを手掛ける 筧裕介氏は、「持続可能な地域づくりには、4つの形態がある」として

土　　つながり協働し高めあう「地域コミュニティ」
陽　　道を照らしみんなを導く「未来ビジョン」
風　　一人ひとりの生きがいを創る「チャレンジ」
水　　未来を切り拓く力をはぐくむ「次世代教育」

を掲げています。

筧氏は、これらの形態を基に、地域づくりに役立つ目標達成のためのアプローチ方法について「　持続可能な地域づくりはどうしたら可能だろうか」と外に向かって問いかける形で

○　一過性で終わらない、長期にわたる地域づくりには何が必要なのだろうか。
○　強力なリーダーに頼ることなく、住民主体で、じわじわ地域を活性化できないだろうか。
○　過去の成功体験や他地域の成功事例に頼るのではなく、確かな知と、科学的アプローチによる地域づくりを実践できないだろうか。
○　一部の住民のためではなく、誰一人取り残さない地域づくりは可能だろうか。

等と独自の視点を明らかにしつつ、これらを踏まえて机上論ではない過去の実例や検証結果に基づく、アプローチ方法を提案しています。

2015年の国連総会で採択された「持続可能な開発のための２０３０アジェンダ」を推進するうえで、筧氏のアプローチ方法が欠かせません。

＊　アジェンダ　～　必ず実践すべき計画やプランに対して使われる

２　ＳＤＧｓの基礎知識

①　途上国から先進国まで全世界、全地域共通の目標

全ての国がその対象に含まれる。日本全体の目標というだけでなく、市区町村レベルという地域の目標でもある。

②　産学官民、全セクター、市民一人ひとりが主役

人類共通の目標であり、企業にとっては新しい事業機会を生み出すイノベーションの種にもなる。市民一人ひとりが主役となり、行動することが求められている。

③　誰一人取り残さない

ＳＤＧｓの大切な理論の一つが「誰一人取り残さない」（no one will be left behind）である。

増えつつある生活保護世帯、社会的弱者と呼ばれる方が暮らしやすい社会を実現することは、地域にとって大切なことである。誰もがマイノリティになり得る面を持っており、いつ身体的・精神的・経済的な厳しさを抱えるかわからない時代を生きている。つまり他人の為ではなく自分のために大切なのである。

④　3 領域、17 ゴール、169 ターゲット

国連が主導と聞くと、地球環境問題や貧困問題を連想しがちであるが「経済」も大切なテーマであることが特徴的である。

「全ての人に健康と福祉を」「質の高い教育を皆に」「人や国の不平等を無くそう」など社会福祉領域のゴールも多く含まれる。

17 ゴールそれぞれに 10 個程度の細分化されたターゲットが書かれている。17 ゴールを理解するにはターゲットを読み解く必要がある。

⑤　2030 年が目標の期限

今年や来年の短期的な話ではなく、約 10 年かけて達成を目指す中長期的な活動である。

3　目標達成のためのＳＤＧｓのためのアプローチ

○　イノベーションをスリム化

人類が豊かになったことで、自然資源を人間が許容量以上に使用しており、過去の遺産をほとんど食いつぶしている状態である。

これに対処するため、一つは、支出を見直して不要なものを減らす生活のスリム化である。もう一つは、収入を増やすこと。つまり、自分のスキルを磨き価値を高め、稼げるようにトライする。自然資源から生み出す価値を高め、より効率的に活用するため、技術や生活のイノベーションを起こすことである。

我々の生活が、ビジネスが、まちづくりが、抜本的に変わるイノベーションを起こすことが目標達成に欠かせない。

スリム化とイノベーション、この二つにより、収入（生み出す価値）と支出（環境負荷）をイーブンにすること。それが、持続可能な開発、持続可能な地域をつくるということである。

○　包括性とパートナーシップ

１７ゴールは、それぞれが独立して存在しているのではなく、互いに密接に関連している。つまり、あるゴールの達成のための行動が、他のゴールを阻害することもあれば、逆に他の複数のゴールに好影響を与えることもある。

協働シナリオ　⇒　関係者が対話し、地域全体が目指す姿、各自の生活や事業の目的を共有し、ともに達成することを目的として協働するシナリオ。

○　バックキャスティング：未来から考える

協働シナリオは理想だが、なかなか実現しない。関係者間の分断は、深刻で溝を越え協働するのは難しい。

この分断を超えるためのＳＤＧｓのアプローチが、バックキャスティングである。バックキャスティングとは、未来の理想的な姿、ゴール像を描き、その実現に向けて、やるべき活動を大胆に考える未来思考のアプローチである。（その逆は、フォアキャスティング）今の自分の状況を一旦横に置いて 10 年後の地域の理想的な姿を描くというのがバックキャスティングである。

＊　フォアキャスティングとは

現状認識からスタートし、課題を抽出し、現状を改善した結果として実現可能なゴール像や未来の姿を描く未来予測のアプローチ。

地域でのまちづくりや新規事業のプロジェクトは、現状から始めるフォアキャスティングのアプローチが実施されがちである。しかし、この方法だと、どうしても今の自分達の状況から離れられない。

＊　ソーシャルデザインとは

社会のために制度やインフラ等　街に関するあらゆる要素を設計すること。社会づくり、街づくり

社会をどう築くかという計画。デザインの対象はモノだけではなく、社会である。その対象は社会インフラの整備から社会制度までと幅広い。

＊　ＳＤＧｓの定義

住民、事業者、行政職員など、地域外の様々なステークホルダーが、自分の立場・領域を超えて、共に幸せな地域の未来の姿を描き、その実現に向けて、みんなで協働して取り組むチャレンジ。